

## これがあれば、きっと納得！資料収集名人になろう 教材「天気を予想する」武田康男 文

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーション能力

第5学年2組 男子14名 女子12名 計26名

研究主題

対話を機能させ 考えを深める学びづくり

～ 言葉による見方・考え方を働かせ、学び合いのある授業を通して ～

## 1 単元観

## 【学習指導要領との関連】

本単元は、第5学年及び第6学年「C読むこと」の内容(1)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を受けて設定したものである。

## 【本教材の特性】

本教材の特性として大きく3つ考える。

- ①本教材には文章全体を貫く「問い」はなく、部分的な「問い」に対する「答え」から新たな「問い」を生み出していく構成となっている。このことは読者の思考に沿いながら筆者の主張へと徐々に近付けていくための論の展開であるといえる。
- ②本教材の最大の特徴は、複数の資料を多用している点である。特に表やグラフは本文と関連付いたものとなっているため、叙述の根拠となる資料箇所と十分対応させることで、読む力を育てることができる。
- ③本教材は、次単元「グラフや表を用いて書こう」と密接に関係している。そこで、文章以外の資料を活用した説明の良さや、効果的な資料選定の重要性を考えさせて、筆者の意図や表現の工夫を評価しながら読ませることが必要である。

以上の特性を生かし、本単元では読者を筆者の主張へと誘うための論の展開や資料活用のあり方を中心に、主張内容を評価していく学習活動を設定した。

## 3 指導観

## (1) 単元全体を通して

本単元では、特に以下の点に留意して指導を展開する。

- ①単元を貫く学習課題として、『「自分でも天気を予想することが大切だ。』と思える説明的な文章だったか。』とすることで、読者の一人として自分の考えを明確にして読む学習活動を設定する。こうすることで、筆者からの情報を単純に受け入れるだけでなく、主体的に自らの意見を表明しながら読むことの楽しさを味わわせたい。そのためにも、他の児童と叙述等を根拠として積極的に意見交流させることで、自分の考えを広げ深めさせるようにしたい。
- ②筆者の主張をとらえるには、意味段落を意識して読ませることが重要である。そこで本教材文の特性である「問い」と「答え」の関係性に注目して文章構成をつかませる。その際、意味段落ごとに内容を要約させることで、筆者の論の展開の面白さに気付かせるとともに、筆者の主張をまとめさせるようにする。
- ③複数の資料がどの段落または文と関連しているかという観点で、資料を選んだ筆者の意図を考えさせながら読み進める。その際、他の資料(以前の教科書資料)やひと目盛の大きさを変えたサンプルグラフ等と比較させることで、説明文の資料選定の重要性についてじっくり考え、話し合わせたい。

## 2 児童観

## 【既習単元での実態】

本学級の児童は、文末表現や接続語に着目して中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係や事実と意見の関係を考えながら読む学習活動を行っている。また、要点や要旨をまとめ、筆者の考えに対する自分の意見をまとめる学習も行っているが、文章の内容を的確に押さえて自分の意見をまとめることを苦手としている児童が多い。

## 【国語科アンケート調査結果】

1学期末に行った国語科アンケートでは、「説明的な文章で筆者の考えについて共感したり疑問に思ったりしながら、自分の考えと比べて読んでいる。」という項目において、「よくあてはまる」と答えた児童は19%だった。主張を伝えるために説明の工夫をした筆者の意図を想定しながら文章を読もうとしている児童は少ない。

## 【対話を機能させた学びの実態】

国語科アンケートの「理由を付けて考えを伝えている」という項目に「よくあてはまる」と答えた児童が19%だった。根拠を基に自分の考えを伝えたり、相手の考えと自分の考えを比較し、付加したりといった学び合いは十分にできていないといえる。

## 【分析】

これらのことから、本学級の児童には、筆者の主張をとらえ、それを伝えるための工夫について筆者の意図を想定して読む学習を繰り返すこと、文章の叙述を根拠にして自分の考えをもち、互いの感想や意見を伝え合う場を設定することが重要であると考えられる。

## (2) 学習に用いる言葉・表現・語彙

### 学習に用いる言葉

説明文の基本三文型（頭括型・尾括型・双括型） 意味段落（部分的な問いとその答え）  
 要約（意味段落ごとのまとめ） 要旨（筆者の中心となる考え）

### 着目させたい表現・語彙

重要語句（理由 要因 手立て） 資料と文章をつなぐ表現（上の表は～ 上のグラフは～）  
 かぎかっこの効果（「今、ここ」） 考えの主体（わたしの考え わたしは ）  
 文末表現（大切にしたいものです）  
 グラフや表のキャプションにある表記（再構成）

## (3) 対話を機能させる学び合いに向けた手立て（聴く・つなぐ・もどす）

- 選んだ立場とその理由・根拠を意識して友達の考えを聴くことを大切にする。
- 友達の考えに対して質問したり答えたりすることで、個やグループの考えをつなぐ。
- 常に「なぜ、筆者は～？」という発問によって本文中の叙述や構成の工夫にもどすことで、考えの根拠を明確にしていく。

## 4 単元の目標

- 筆者が主張する内容に関心をもち、筆者の説明方法や用いた資料に対して自分の考えをもって読もうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 筆者の主張とそれを伝えるための工夫について、筆者の意図を想定しながら読み、自分の考えをもつことができる。 【読むこと(1)ウ】
- 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(オ)】

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
イ 「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する言語活動」を通じた指導		
○筆者の主張やその主張に説得力をもたせるための説明方法の工夫に興味をもち、読者としての自分の意見を明確にしながら文章を読もうとしている。	○目的に依りて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながら読みだしている。	○文章の中での語句と語句との関係を理解している。

## 6 本校で育成したい資質・能力

	資質・能力	めざす姿
スキル	コミュニケーション能力	根拠を明確にして筋道立てて伝えたり、相手の意図を考えながら聴いたりしている。

## 7 単元計画

### (1) 単元構想図

# これがあれば、きっと納得！資料収集名人になろう 教材「天気を予想する」

## 課題発見 (2)

### 【題名読みから】

- ・天気はどうやって予想されているのだろう。
- ・筆者は、私たち読者に何を伝えたいと思って文章を書いたのかな。

### 【本文の通読から】

- ・「問い」の文が3つもあるなあ。 ・とにかく、写真や図、グラフが多いぞ。



筆者は、なぜ「問い」の文をたくさん用いたり写真やグラフなどの色々な資料を取り入れたりしたのかな？

## 課題の設定 (1)

「自分でも天気を予想することが大切だ。」と思える説明的な文章だったかな。

## 情報の収集 整理・分析 (4)

3つの「問い」と「答え」の繰り返しに着目しながら、意味段落ごとに要約して読む。

本論部と結論部を関連付けながら、筆者の論の進め方（3つの「問い」と「答え」の繰り返しの効果、反証事例の効果）を評価して読む。

文章と複数の資料（写真や図、グラフ）を関連付けて読み、資料が効果的に使われているかを評価して読む。 【本時】



## まとめ・振り返り (2)

- ①筆者の主張と異常気象を報じる新聞記事を関連させながら、「自分でも天気を予想することは大切だ」と思える説明文であったかについて、自分の考えをまとめる。
- ②友達と互いの考えを交流し合い、効果的な資料提示の大切さについて振り返る。

## 【総合的な学習の時間】レッツ！吉小エコプロジェクト

エコ活動の必要性を促すような、効果的な資料収集に取り組む。

(2) 指導計画 (全9時間)

次	時	・学習活動 資質・能力の重点	評価観点			◇評価規準 (評価方法)
			関	読	言	
第一次	1 2	・教材「天気を予想する」を読み、学習の見通しをもつ。	○			◇題名及び全文通読を通して内容や使用されている資料に興味を持ち、進んで教材文を読もうとしている。(行動観察、ノート)
	3	・説明文の基本三文型を意識して要旨をまとめ、単元を貫く学習課題を作る。	◎	○		◇文章構成に着目して筆者が主張していることの大体を読んでいる。(ノート) ◇筆者の主張に対する読者としての意見をもとうとしている。(行動観察)
第二次	4	・「問い」と「答え」の関係性に着目して、意味段落を要約しながら読む。			○	◇意味段落を構成する各形式段落の中心となる文を明らかにしている。(行動観察) ◇意味段落ごとに要約している。(ノート)
	5	・本論部と結論部を関連付けながら、筆者の論の進め方について自分の考えをもつ。 ☐コミュニケーション能力		○		◇本論2において、天気予想の困難さを示す反証事例を取り上げた効果について吟味している。(行動観察・ノート)
	6 本時	・複数の写真資料を用いた筆者の意図を文章と関連付けて読み、自分の考えをもつ。 ☐コミュニケーション能力		○		◇複数の写真資料を用いた筆者の意図を理解し、その効果について考えている。(行動観察・ノート)
	7	・データ資料(グラフ)の特徴をとらえて筆者の意図を読み、データ資料の効果的な使い方に対する自分の考えをもつ。 ☐コミュニケーション能力		○		◇授業者が作成したサンプルグラフ等と比較しながら、効果的なデータ資料の提示方法について吟味している。(ノート)
第三次	8	・気象予報士である筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。		○		◇筆者の主張へと導く論の進め方や資料提示の良い点及び改善点を明らかにしながら、自分の考えをまとめている。(ノート)
	9	・友達と互いの考えを交流し合い、効果的な資料提示等の大切さを振り返る。	○			◇互いの考えを認め合いながら、読者を説得させる資料提示等の工夫のポイントを考えている。(行動観察・ノート)

8 本時のねらい

(1) 本時の目標

- ・複数の写真資料を用いた筆者の意図を文章と関連付けて読み、写真資料の効果的な使い方に対し自分の考えをもつことができる。

【読むこと(1)ウ】

(2) 本時の評価規準

- ・複数の写真資料を用いた筆者の意図を理解し、その効果について考えている。

(3) 準備物 ・ICT 機器 (教材文において使用された写真または図)

(4) 学習の展開 (本時 6/9 )

分	<b>学 習 活 動</b> ○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ◆配慮を要する児童への手立て	◇評価規準 (方法) ★資質・能力
5	1 前の教科書で使用されていた写真と今の写真を比較し、見通しをもつ。 ○使われた写真を比べてみよう。 ・途中に新しい写真が1枚増えている。(写真A) ・教材文の最後にある3枚の写真が違う写真になっている。(写真BCD) ・どうして写真が変わっているのかな。  2 本時の学習課題の確認をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【めあて】 どうして筆者は写真を変えたのだろうか。</div>	☆写真の使われ方に対して関心もてるように、以前の教科書で使用されていた写真を提示する。	
10	3 写真Aが新しく取り入れられた理由を考える。 ○写真Aは、どの段落と関係しているかな。 ・6段落に写真を説明する言葉がある。 ・写真があるから6段落の「山を一つこえただけで天気がことなることがしばしばある」という局地的な天気の変化が本当に起こっていることがよく分かる。	☆筆者が意図的に写真をつかっていることに気付かせるために新たに付け加えた写真を取り上げ考えさせる。 ◆資料が文章のどの部分を説明しているか理解するためラインを引きながら考えるようにする。 ☆筆者の考えをより伝えやすくするのに写真は役立っているということ、グループでの話し合いを通して理解できるようにする。	
20	4 写真Eが写真BCDに変えられた意図を話し合う。 ○どうして、筆者は写真Eを写真BCDに変えたのか、話し合おう。 ・3枚の写真とも文章を分かりやすくするために使われている。 ・写真Bがあると9段落の天気のことわざがどんな様子か分かる。 ・写真Cは5段落とつながっていて「急速に発達」する積乱雲は突発的な天気の予想が難しいことを伝えたい。 ・写真Dは、8段落の「なんらかの変化」に気付く大切さについて伝えたい。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">考えを深める対話</div> ◆写真に表されていることが文章と関連している箇所にラインを引かせて、具体的にとらえられるようにする。 ☆他の人の考えと比べて、自分の考えを説明できるように、つなげて話すようにさせる。 ☆筆者が用いた写真について、どのような意図をもって使ったかを文章を根拠に考えることができるようにする。	★コミュニケーション能力

5	<p><b>5 写真を変えることの効果を考える。</b></p> <p>○筆者が、写真を増やししたり、変えたりしたことの効果は何かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を増やすことで局地的（突発的）な天気の変化のことがよく分かる。</li> <li>・私達がよくみる雲の写真だからためになる。</li> <li>・10 段落の「自分で空を見、風を感じる」ことの大切さが写真を使うことでよく伝わる。</li> <li>・写真は全て「筆者撮影」だから自分の写した写真を使うことで筆者の伝えたいことがより伝わる。</li> <li>・自分で天気を予想することの大切さを伝えることができている。</li> </ul>	<p>☆話し合ったことをもとに筆者が写真を使った効果について考えさせる。</p> <p>◆写真 E が使用されなくなった意味・写真 BCD が叙述の最後に三枚セットで掲載されている意味・筆者が撮影した写真を使っている意図を考えることで、写真 BCD を取り入れた筆者の思いを想定できるようにする。</p>	<p>◇複数の写真資料を用いた筆者の意図を理解し、その効果について考えている。 (行動観察・ノート)</p>
<p>〈本時でめざす子どものすがた〉</p> <p><b>筆者が写真を増やししたり、変えたりすることの効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・局地的な天気の変化など分かりにくかったことが、天気の違いを表す写真を使うことで、読者にもイメージできる。</li> <li>・筆者の自分でも天気に関する知識をもち、自分で空を見、風を感じることを大切にしたいという思いをメッセージとして送ることができる。</li> <li>・自分で空を見、風を感じてほしいという筆者の願いを筆者も自分が撮影した写真を用いることで伝えられている。</li> </ul>			
<p><b>【まとめ】</b></p> <p>筆者は、天気予報だけでなくその場所で空を見、風の変化を自分で感じることの大切さを読者により分かりやすく伝えるために写真を変えた。</p>			
5	<p><b>6 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</b></p> <p>○表やグラフについても、どんな効果があるか考えてみよう。</p>	<p>☆本時の学習を通して、分かったことを確認し、次の時間の意欲につなげる。</p>	

(5) 板書計画

**まとめ**

筆者は、天気予報だけでなくその場所で空を見、風の変化を自分で感じるこの大切さを読者により分かりやすく伝えるために写真を変えた。

**写真 E**  
以前の教科書に掲載されている台風が近づくときの雲の写真

**写真 D**  
現教科書に掲載されているうろこ雲の写真

**写真 C**  
現教科書に掲載されている積乱雲の写真

**写真 B**  
現教科書に掲載されている富士山の写真

**写真 A**  
6 段落に対応した写真※以前の教科書には使われてなかった写真

八段落・九段落

- ・この雲をみたら雨が降ることを教えてくれるようになる。(突発的な天気の変化)
- ・自分で空を見たり、風を感じたりしたほうがよいと教えてくれている。

五段落

- ・急速に発達する積乱雲のことを伝えたい。

九段落

- ・三枚あることで、文章に書いてあることがより伝わる。

六段落

- ・山をこえただけで、こんなにも天気が違うことがよく分かる。(局地的な天気の変化)

**めあて**

天気を予想する  
どうして筆者は写真を変えたのだろうか。

武田康男

現教科書に掲載されている写真と文

ICT 画面